

2019年度 学術研究員一覧

所属	資格	氏名	種別	期間	国外研究:主たる目的国	国内研究:主たる研究先	研究内容の概要	備考
法	教授	荒木 修	長期 (1年)	2019.9.21 ～ 2020.9.20	ドイツ	—	①均質的な生活関係を国土全体にわたって保障すべき国家の任務が国土整備法によって具体化されているが、それを支える行財政の構造、②このような国家任務およびその具体化に関する法理論の展開などについて研究を進めていく。	
	教授	葛原 カ三	短期 (6カ月)	2019.9.21 ～ 2020.3.21	ドイツ、スペイン、イタリア	—	ドイツ刑法学における共犯論、性犯罪論の研究	
	教授	津田 由美子	短期 (6カ月)	2019.9.23 ～ 2020.3.23	ベルギー	関西大学	ベルギーにおける政治史研究への関心とアプローチ	
文	教授	篠原 啓方	長期 (1年)	2019.4.1 ～ 2020.3.31	韓国、ウズベキスタン、カザフスタン、キルギス、タジキスタン、トルクメニスタン、中国	—	1. 前近代朝鮮の対外交流史に関する物質的痕跡(遺跡・遺物)の調査・収集・研究 2. 東ユーラシア地域の文字資料・石造文化財の比較研究を目的とした資料の調査・研究	
	教授	ラファエル・ロンペール	長期 (1年)	2019.9.21 ～ 2020.9.20	アメリカ、イギリス	—	奴隷貿易およびアメリカ奴隷制度との関わりにおいてのユートピア概念についての文学作品と資料を用いた研究。とりわけ、歴史と文学の双方に見られる逃亡船員と奴隷船や所有者から逃亡した奴隷らからなる人種的に多様な孤立コミュニティに焦点を当てる。	
	准教授	森 勇太	長期 (1年)	2019.4.1 ～ 2020.3.31	中国	関西大学、国立国語研究所、九州大学、鹿児島県薩摩川内市飯島、鹿児島県鹿児島市、弘前大学、青森県むつ市、山口県山口市、広島県広島市、高知県高知市、徳島県徳島市、香川県高松市 他	日本語の待遇表現の地理的・歴史的なバリエーションを記述・対照し、待遇表現と社会構造との関係性を典型的に捉えることを目指す。具体的には、近世後期から近代にかけての文献における待遇表現の運用を調査し、社会構造が変化の中で、言語変化がどのように進むのかを考える。	
	教授	澤井 一彰	短期 (6カ月)	2019.4.1 ～ 2019.9.20	トルコ共和国、ヨーロッパ各地	—	イスタンブールを中心として、オスマン朝の各地において発生した地震、洪水、大火といった巨大な都市災害についての研究を、とくに歴史学的観点から行う。同時に、当時の災害復興時における物資および食料の供給の具体的実相をあきらかにするとともに、現代の食生活や食文化に見られる宗教的禁忌にも注目しつつ、広い意味での地中海世界の各地における実地調査を含めた研究を実施する。	
	教授	村上 泰子	短期 (6カ月)	2019.9.21 ～ 2020.3.21	—	関西大学、京都大学図書館、国立国会図書館東京本館、龍谷大学 他	図書館の情報資源組織化に関する研究(日本目録規則2018改訂を中心に) ・戦前の大学図書館相互協力に関する研究	
	教授	山本 卓	短期 (6カ月)	2019.4.1 ～ 2019.9.20	—	関西大学、東京大学、国立公文書館、藤清文堂出版 他	数ある実録のうち、最大の流布を見た赤穂義士伝(「忠臣蔵」)を取り上げ、その基礎的研究を行う。	
	教授	マーク・メリ	短期 (5カ月)	2019.4.1 ～ 2019.8.31	アメリカ、イタリア、スペイン、フランス、ドイツ、イギリス	関西大学 他	西欧と米国における大手の、伝統的、そしてクラフトのビールおよびサイダーの生産や消費を日本とも比較しながら、伝統的飲酒文化と、いわゆる「クラフト」飲酒文化との関係に重点をおいて考察する。	研究期間 5カ月
経済	准教授	熊谷 幸久	長期 (1年)	2019.4.1 ～ 2020.3.31	イギリス	—	カークマン・フィンレイは19世紀前半のスコットランドを代表する貿易商・製造業者の一人であるとともに、政治的にも大きな影響力を持っていた人物である。本研究では貿易商・製造業者および政治家としてのカークマン・フィンレイの活動を中心に、彼の生涯を明らかにする。	
	准教授	神江 沙蘭	短期 (6カ月)	2019.10.1 ～ 2020.3.31	ドイツ、イギリス	—	1)[『The Politics of Integration: Unbalanced Development of the European Financial and Monetary Systems』の草稿完成、提出、修正(Oxford University Press)。欧州の金融・通貨システムの統合の不均衡が2000年代の金融不安定化に繋がった点に着目し、①統合の不均衡の原因、②近年金融危機・ユーロ危機での統合パターンの変化、③制度上の課題を考察する。 2) 共同研究(日文研)「日本における法・政治・宗教の相互関係」への寄稿論文執筆。欧州やEU基本条約での宗教の位置づけを考察し、日本の近代化で宗教が慣習化し国家と宗教の関係が変容した過程を踏まえ、宗教対立が深まる社会での制度形成について考察する。	
商	教授	岸谷 和広	長期 (1年)	2019.9.21 ～ 2020.9.20	アメリカ、カナダ、イギリス	—	新たなメディア(ソーシャルメディア等)を利用した広告効果を、消費者の文化特性、消費者間の社会的関係、露出するブランド特性などを考慮した観点から、実証研究を行う。	
	教授	横山 恵子	長期 (1年)	2019.4.1 ～ 2020.3.31	オーストラリア、イギリス、デンマーク	—	ソーシャル・アントレプレナーシップに関する国際比較研究: 戦略・組織および教育・エコシステムからの考察	

※ 「関西大学学術研究員規程」第3条第1号の在職期間及び年齢要件(いずれも2019年4月1日現在)に抵触しないことを確認しています。
 ※※会計研究科、心理学研究科心理臨床学専攻は2ヵ年で20カ月、教育推進部及び国際部は2ヵ年で14カ月をそれぞれ2年ごとに割り当てます。

2019年度 学術研究員一覧

所属	資格	氏名	種別	期間	国外研究:主たる目的国	国内研究:主たる研究先	研究内容の概要	備考
社会	教授	安田 雪	長期 (1年)	2019.4.1 ～ 2020.3.31	スロヴェニア、イタリア、アメリカ、台湾	関西大学、東京大学	・ものづくり社会学の分野たちあげ ・社会ネットワーク分析の最先端の技法習得 ・海外のネットワーク分析ソフトの開発者との新しいソフトウェアの実装と実験についての議論・検討	
	准教授	守谷 順	長期 (1年)	2019.4.1 ～ 2020.3.31	オランダ	—	現在とにかかっている不安、注意、イメージの研究を進め、発展すべく、その分野の一流の研究者が揃う海外の大学にて共同研究を行う。研究グループが実施しているプロジェクトに参加する、もしくは新たなプロジェクトを立ち上げ、現場にて心理実験を実施し、学会発表、論文執筆を行う。さらには、継続的にプロジェクト研究を実施できるようにする。	
政策 創造	教授	柄谷 利恵子	長期 (1年)	2019.9.21 ～ 2020.9.20	イタリア、オーストラリア、アイルランド、イギリス	関西大学 他	Brexitをふまえ、英国の国籍及び入国管理政策の変容を研究する。特に、これらの政策変容が「英国人の特性(Britishness)」概念に与える影響について検討する。	
	教授	河崎 信樹	短期 (6カ月)	2019.4.1 ～ 2019.9.20	アメリカ、ドイツ、イギリス、イタリア	関西大学	ニクソンショック(1971年)後における国際経済秩序の変動とアメリカの対応に焦点を当てる。ブレトンウッズ体制は、アメリカ経済の相対的な衰退、一方における日本と西ドイツの急速な経済的台頭の中、崩壊した。その後、1970年代～80年代にかけて新たな国際経済秩序の模索が続いた。その模索は何をもたらし、どのような国際経済秩序が形成されたのか。本研究では、アメリカの対西ヨーロッパ・対日経済政策に検討を加えることを通じて、この課題の解明に取り組む。	
	教授	宮下 真一	短期 (2カ月)	2019.7.30 ～ 2019.9.20	韓国、シンガポール	関西大学	アジア地域の交通インフラの現状について、国家的プロジェクトとして物流先進性を掲げている韓国、及び歴史的にアジア貿易の先進国であるシンガポールを中心に考察する。	
外国語	教授	奥村 佳代子	長期 (1年)	2019.4.1 ～ 2020.3.31	イタリア、イギリス、ポルトガル、スペイン	—	16世紀から19世紀におけるヨーロッパの中国語受容を明らかにするため、宣教師の資料を研究対象に、資料の文献的調査と言語的分析を行う。	
	准教授	嶋津 百代	長期 (1年)	2019.9.21 ～ 2020.9.20	ベルギー、イギリス、オランダ	—	日本語ネイティブ教師とノンネイティブ教師が共存する日本語教育環境の研究―「教師の成長」からみた日本語教師教育ネットワークの構築を目指して―	
人間 健康	教授	雑古 哲夫	長期 (1年)	2019.4.1 ～ 2020.3.31	—	東海大学、国立国会図書館、関西大学 他	東海大学高妻教授のもとでバイオフィードバックの基礎となる心理学的な研修を実施し、バイオフィードバックをスポーツなどに応用した競技力向上の研究と実験を実施する。	
	准教授	福田 公教	短期 (6カ月)	2019.9.21 ～ 2020.3.21	ニュージーランド	関西大学	ニュージーランドにおける子ども家庭福祉施策の現状と課題を把握したうえで、わが国も子ども家庭福祉施策への示唆を得ることを目的に、児童相談システム、社会的養護、地域における子育て支援の現状を把握する。とりわけ、社会的養護における里親支援システムについて検証する。	
総合 情報	教授	谷本 奈穂	長期 (1年)	2019.4.1 ～ 2020.3.31	オーストラリア、ドイツ、フランス、韓国	—	日本における女性文化を研究対象としている。具体的には、(1)美容整形を実践する女性たちの意識調査、および美容専門雑誌や美容広告の分析、(2)女性向けメディアの内容分析、特に女性ファッション雑誌、少女向けマンガ、少女向けテレビアニメーションの調査を行っている。	
	准教授	小林 孝史	長期 (1年)	2019.9.21 ～ 2020.9.20	アメリカ	—	インターネット利用の発展やクラウドシステムの利用拡大に対応したストレージシステムの研究開発およびIoT(Internet of Things)技術の最新動向の調査・意見交換	
	教授	古賀 広志	短期 (6カ月)	2019.4.1 ～ 2019.9.20	ベトナム、スウェーデン、イタリア	関西大学、明治大学 他	経営情報システム論の研究領域において近年とみに注目を浴びている社会物質性とデザインサイエンスという2つの非常に深く関連する分析視覚の視点から、最新の研究動向を把握するだけでなく、国内外の先進的IT活用企業の事例を調査することで、その分析視覚の有効性について考察を加えることを主たる研究内容とする。	
社会 安全	被選考者なし							

※ 「関西大学学術研究員規程」第3条第1号の在職期間及び年齢要件(いずれも2019年4月1日現在)に抵触しないことを確認しています。
 ※※会計研究科、心理学研究科心理臨床学専攻は2か年で20カ月、教育推進部及び国際部は2か年で14カ月をそれぞれ2年ごとに割り当てます。

2019年度 学術研究員一覧

所属	資格	氏名	種別	期間	国外研究:主たる目的国	国内研究:主たる研究先	研究内容の概要	備考
システム理工	准教授	高橋 可昌	長期 (1年)	2019.9.21 ～ 2020.9.20	イギリス、フランス、ドイツ、オーストリア、アメリカ	名古屋大学、関西大学	材料の変形および破壊を支配するメソスコピックメカニズムの解明や、力学的強度の最適表現(強度則)構築を行う。具体的には、各種材料において問題となる「繰返し負荷下における疲労亀裂の発生・進展」、「水素脆性に代表される環境助長型破壊の発生・進展」ならびに「クリープ負荷下における時間依存型破壊の発生・進展」という三現象を対象に、力学試験や電子顕微鏡による微小領域観察を通じて、新規法則の探求や材料開発指針の提示・検証を行う。	
	教授	宇津野 秀夫	短期 (3カ月)	2019.7.1 ～ 2019.9.18	スペイン、ポルトガル、フランス、ドイツ、イギリス	—	欧州著名大学における振動・音響・波動現象の最新の研究動向の調査を行う。特にサステナブル音響材料、超音波応用、非破壊検査診断、音楽音響、騒音振動解析などの分野で、第1線で活躍する欧州の研究者の研究室を訪問し、深いレベルの技術討論を行い、欧州の最先端の研究レベルを理解すると同時に、自らの今後の研究テーマの模索を行う。	
	教授	小金沢 新治	短期 (3カ月)	2019.6.21 ～ 2019.9.20	アメリカ	—	IoT用環境発電の研究を行っており、開発した発電機を用いたアプリケーションに研究範囲を広げようと考えている。また、小型飛行体の自立飛行を目指し研究も行っている。今後、これらの研究を進展させていくためには、小型の制御用デバイスや非線形制御系の導入に力を入れる必要性を感じている。	
環境都市工	教授	岡 絵理子	短期 (6カ月)	2019.4.1 ～ 2019.9.20	台湾、インドネシア、オランダ、フィンランド、フランス、イギリス、アメリカ	沖縄	都市における住居系建築物、特に集合住宅の風土・民族・社会による形態と住まい方に関する研究 都市を構成する住居系建築物が、どのような形態で発展し、どのように住まわれてきたかを調査、研究する。また、日本の集合住宅のルーツを探る。	
化学生命工	准教授	柿木 佐知朗	長期 (1年)	2019.9.21 ～ 2020.9.20	カナダ、アメリカ	—	生体材料の微細構造や力学的特性が、間葉系幹細胞の心筋/神経分化や免疫系細胞の分化に及ぼす影響を、分子生物学的解析によって明らかにする。リソグラフィ技術などによってナノボロニーや弾性率を制御したポリマー基材もしくは界面を構築し、その上での間葉系幹細胞や免疫系細胞を分化誘導し、各生体機能に関連する遺伝子群の発現やタンパク質の産生を定量的に評価する。	
	准教授	住吉 孝明	短期 (2カ月)	2019.8.1 ～ 2019.9.15	—	理化学研究所、東京大学農学部、東京都医学総合研究所、帝京大学、東北大学	化学的アプローチを用いて生理活性物質の作用機構や生体のメカニズムを分子レベルで明らかにするケミカルバイオロジーの研究手法を習得することを目指す。具体的には、がんや神経変性疾患に関与するとされるヒストンデアセチラーゼ阻害剤を用い、それらの疾患との関わりを最新の化学的手法や分析化学的手法で解析する。	
法務	被選考者なし							
会計	教授	三島 徹也	長期 (1年)	2019.9.21 ～ 2020.9.20	ドイツ、ベルギー	—	ドイツにおける会社法上の債権者保護制度と企業の担保化について研究する。すなわち、株式会社における債権者保護に関する考え方は、会社財産を確保するという従来の資本制度や純資産の維持という観点から、デフォルトを起こさないよう債権者が企業行動をモニタリングするという観点へと転換している。それと並行して、債権者が有する担保は、不動産等の個別担保から、企業の一部ないし全体を担保化するという包括担保へと移行していき、これらの一連の動向につきドイツを参考にわが国の法制度への導入について研究する。	
心理学	被選考者なし							
教育推進	被選考者なし							
国際	被選考者なし							

※ 「関西大学学術研究員規程」第3条第1号の在職期間及び年齢要件(いずれも2019年4月1日現在)に抵触しないことを確認しています。
 ※※会計研究科、心理学研究科臨床心理学専攻は2か年で20カ月、教育推進部及び国際部は2か年で14カ月をそれぞれ2年ごとに割り当てます。